

ボブベックのやさしい投資信託

第36回 株式型投資信託のリスク その12

株式投資信託のリスクについて11回にわたって解説してきました。今回は、投信以外の投信、言い替えると、広義の投信について考えてみましょう。

(7-G)投信以外の投信

投信とは

投信って何？とたずねられる時、このコーナーを読んでいる皆さんなら、「多数の投資家から集められたお金を一つにまとめ、運用の専門家が株式や公社債など証券・金融市場で運用し、その成果の全てを投資家に返す仕組み」と、即座に答える事が出来るでしょう。しかしながら、今まで、このコーナーで説明してきた「投信」にはもう一つの条件があるのです。それは、日本の投資信託法という法律に基づいて承認を得たファンドだという事です。これを**狭義の投信**としましょう。巷にはそういった狭義の投信以外にも多くのファンド、即ち**広義の投信**が存在するのです。今回は、日本の投資信託法に基づかない**広義の投信**について解説していきましょう。

ヘッジ・ファンド

ファンド・オブ・ファンズの解説の際にも出てきました。ヘッジファンドは、空売りと呼ばれる手法を使ったり、借入をしたり先物を使うことで純資産の数倍の有価証券に投資したりするので、投資信託法の範疇では運用が出来ません。つまり、今まで説明した**狭義の投信**とは全く別物なのです。大抵の場合、非常に少数の投資家にしか販売されませんから、みなさんが目にする事は少ないかもしれませんが、しかし、ヘッジファンドの動向が株式市場や為替、債券市場を大きく揺るがすこともあるので、新聞や雑誌などで目にする事も多いでしょう。

もともとは、その名の通りヘッジをすることでリスクを小さくするのが目的でした。株の買いと空売りを同額行う事で、株式市

場全体が上昇しても下落しても一定の利回りを出せると考えたわけです。しかしこれは、純資産の約二倍の資産を動かしているわけですから、目論見が外れた場合には、空売りした銘柄と、購入した銘柄の両方で損失を被る場合だってあるのです。

(注：空売りとは、株式を保有していないのに、株式を他から借りてきて売却する事を指します。株価が目論見通り値下がりした時には、その株式を買い戻し借りた人に返します。売った値段と買い戻した値段の差額が利益となるのです。)

また新聞や雑誌などで名前を良く見かける、ジョージ・ソロスのようなファンドマネージャーが運用するヘッジ・ファンドは借入や先物の利用により、純資産の数倍の資金を動かして、利益を得る事を目的とします。しかしながら、これは予想が外れる場合には、資産がゼロになってしまう場合もあるのです。つまり、ファンドが破産してしまうのです。

ゲーム・ファンド

某ネット証券会社が、昨年ゲーム会社と共同で開発したファンドも、投信と呼ばれました。しかし、このファンドも、日本の投資信託法に基づいて設定されたものではありません。有名なゲームを作成するための資金を集めるために設計されたもので、そのゲームの売上に応じて、ファンドの基準価額も上昇します。しかしながら、当然、全ての資産を一つか二つのゲームの売上に賭けるわけですから、そのリスクは非常に大きいものだと考えなければなりません。

R E I T

昨年はR E I Tという投信も登場しました。R E I TとはReal Estate Investment Trustの略。訳すと不動産投資信託となります。これは日本の投資信託法が改正された事によって、設定が可能になりました。不動産に投資するのですが、その不動産からの賃貸収入を配当として投資家に還元する事を目的としています。現在の予想では、債券を上回る年間で数%の配当が期待されています。更に、東証に上場された事から、流動性もそれなりに確保されています。